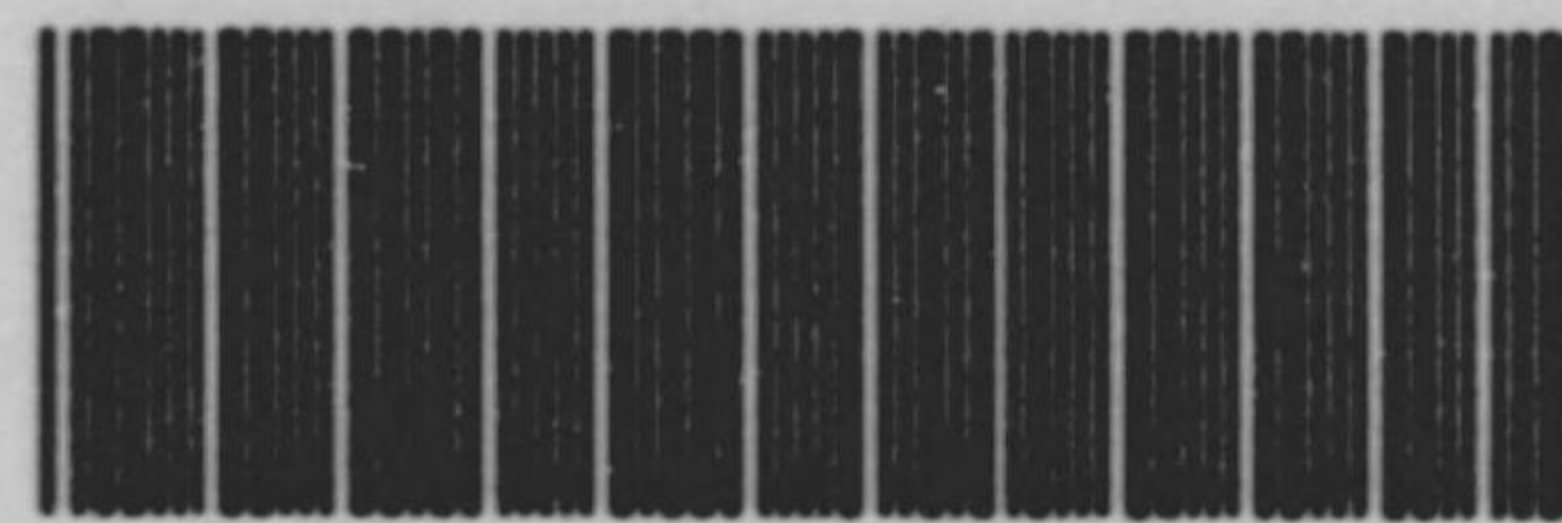


特 240

910



\* 0034329000 \*

0034329-000

特 240-910

左翼戦線の再進出

大山郁夫・著

永田書店

昭和4

AGC

著夫郁山大

特 240

910

左翼戦線の再進出

304

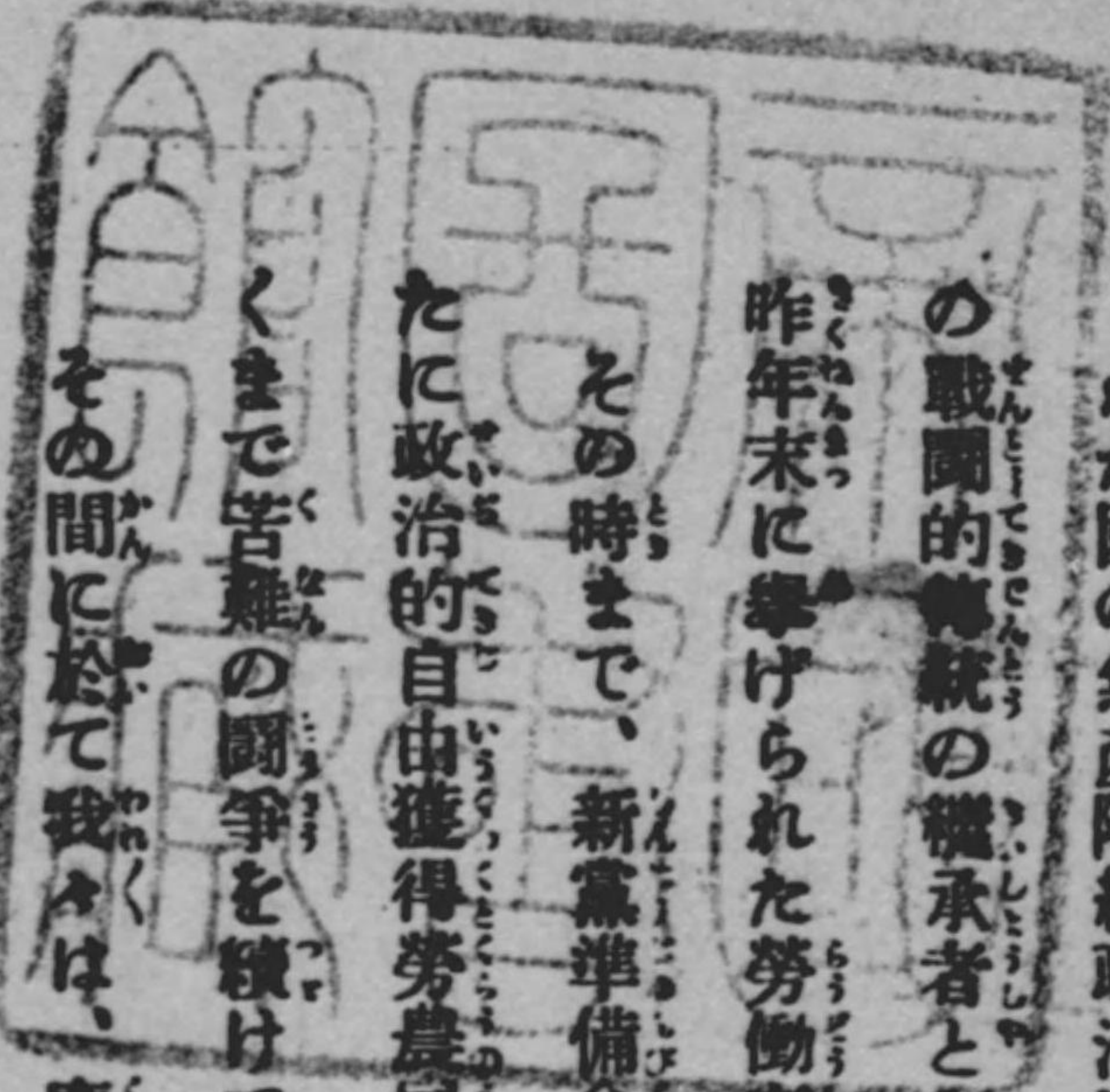
刊店書田永

# 小序

わが國の無産階級政治運動史上に一の光輝ある記録を残して彗星の如く消え去つた労働農民黨の戰闘的傳統の繼承者としての新黨準備會が、支配階級の兇手によつて解散を強制されたのは、昨年末に擧げられた労働者農民黨の結黨大會の第三日に於てであつた。

その時まで、新黨準備會に據つてゐた全國幾萬の戰闘的労働者農民は、それを契機として、たに政治的自由獲得労働同盟の旗の下に固く結合し、益々加重する彈壓の砲火を物ともくまで苦難の闘争を續けて來た。

その間に於て我々は、廣汎なる一般大衆の關心が、加速度的に我々の陣營に向つて集中されつつあつた趨勢を見ることが出來た。特に我々は、右翼および中間派の政黨・組合幹部の指導下に、ある労働者農民が、労働同盟によつてなされた火の出るやうな活動を通じて、次第に明確に左翼の闘争の全意義を理解するに至つたと共に、益々熱烈なる精神的支持をそれに向けるやうになり



つゝあつた状況を注意して、非常に意を強くせず居られなかつた。

かうした傾向は、我々のすべてが敬愛して措かざる同志山本宣治の壯烈なる最期の直後——すなはち本年の三月から四月にかけて、最も顯著に現はれた。この一小篇は、その頃に書かれたものであつた、一度、雑誌『改造』の五月號に發表されたものである。

そのうちに、我々には永久に忘れらるべくもない四月十六日が來た。それ以來、我々の陣營の内外の一般狀勢の上にも、豫想されなかつた一大變動が起つた。そして、その結果として、我々は最早、労働同盟の闘争形態の下に於ては、大衆闘争を一步も前進せしめることが出来なくなつて來たことを、我々の實踐の過程に於て體驗するに至つた。かくて我々は、四一六事件を契機として大衆の左翼支持の傾向が更らに一段と強められたやうに見られたにも拘はらず、——否、それの故にこそ益々、一舉に労働同盟の闘争形態から離脱して、異常に變化して來た當面の客觀的狀勢に照應して大衆的規模に於ける強力なる闘争の展開を我々に可能ならしめる他の闘争形態に轉入すべき必要を痛感せざるを得ざるに至つたのである。

私たちが大膽にも、『新労働黨樹立の提案』を掲げて親愛なる全國の同志諸君の批判の前に立つに至つたのは、大衆の左翼に對せる精神的支持を現實の闘争に組織する必要の急識のみが必ずしもその唯一の動機をなしたものでないにせよ、しかもそれがその重要諸動機の一つをなしたものであることは、あくまで事實である。

それ故に本篇の筆末は、本篇を手になされる讀者諸君が、更らに『新労働黨樹立の提案』並びに雑誌『中央公論』九月號に發表された拙稿『新労働黨樹立の提案まで』等々を併せ讀まれて、本篇の主題となつてゐる本年三四月頃の我々の陣營の内外の狀勢と右の提案との間の一脈の聯關を明確に跡づけられるであらうことを切望するものである。

『新労働黨樹立の提案』そのものは、幸にも親愛なる全國の同志諸君およびそれらの同志諸君と緊密なる相互的信賴の關係に立つ闘争的大衆の間からの壓倒的支持を得て、今や、その結黨の月も目睫の間に追つて來てゐる。この際我々は、かつて労働同盟の下に於ける我々の闘争に異常の關心を示したそれらの闘争的大衆が、來るべき新労働黨の闘争に對してもまた、層一層熱烈なる

支持聲援を與へられるであらうことを、衷心の確信を以て期待するものである。

一九二九年九月

大山郁夫

### 左翼戦線は如何に再進出しつつあるか？

三月三十一日の夜、大阪市中之島の中央公會堂で、全大阪無産團體協議會の主催の下に、故山本宣治追悼演說會が開かれた。豫てからその通知に接してゐた私は、それに参加するために前夜東京を立ち、途中京都で同志河上、奥村等の一行と落ち合つて、共に大阪に赴いた。

その日は、生憎にも、午後になつてから雨がしとく降りだした。それに、大阪の同志たちが聞くと、演說會の宣傳も充分に行はれてゐなかつた事情があつたといふので、聴衆の集まりが思はしく行かないのではなからうかとの不安が、言はず語らずの間に各々の胸裡を往來した。ところが、それは單に一片の杞憂に過ぎなかつたことが間もなく證明された。既に午後三時といふ頃からそろく、入場者が三々五々と來集し始めた。定刻の七時には、會場の隅々までも、略

空席が眼につかなくなつた。それから尙ほ入場者が陸續として詰めかけて来て、八時頃には最早、満場立錐の餘地なき有様となつた。かくて聴衆の總數は約四千と註せられた。そして、會場係りの人たちが吾々に示したところに據れば、その大半は工場労働者たちだといふことであつた。この最後の一事は、その日の演壇に立つ機会を與へられた吾々にとつては何にもまして本懐のことであつた。

だが、何といふすばらしい光景が、その夜の會場に展開したか！ 演壇の上から視線の届く限り、階上階下、たゞ見る人の顔の海が一面に擴がつて、刻々律動的に浪打つてゐる。その一人一人の顔が、はち切れるやうに緊張して、異常の熱心に輝いてさへ見える。壇上の熱辯の進行中に、屢々拍手の音が怒濤のやうに、凄まじきうなりを擧げて迫つて来る。時としては、悲痛極まる嗚咽の聲が漏れて来る。演説の間を縫ふやうにして『注意！ 中止！』の發聲が臨臨によつて發せられる毎に、『××キヤ』の絶叫が聴衆の間から爆發して、一トしきり鳴りを鎮めない。すべてが眞劍そのものだ。その間から、身を以て階級的忠誠に殉じた故人に對する無限の感謝と追

慕、彼に兇刃を加へた白色テラーに對する抑へ難き××と××、階級的××を誓ふ固き決心——かうした様々の強烈なる感情が一つに凝り固まつて、紅蓮の焰を擧げてあたり一面に烈々と燃えあがるかと疑はれるばかりであつた。

かうした印象的な場面を、吾々は再び神戸でも見た。即ちその翌日同地のキリスト教青年會館に於て、神戸地方無産團體協議會の主催の下に同じく山本宣治追悼演説會が開かれて、私は再び同志河上、奥村等と共に、そこに出演したのであつた。たゞ残念なことには、神戸での會場は比較的狭小で、約一千人の收容力をしか持たなかつたから、そこに雪崩を打つて集まつて來た大衆のうちで、入場が出來なかつたものが多數あつた。そして、それらの大衆の一部分は暫らくの間は會場を護るかのやうにその周圍を徘徊して容易に立ち去らうとしなかつたので、私は二階の窓から首を突き出して、夜の街頭に向つて一場の挨拶を述べなければならなかつた。

大阪および神戸に於ける山本宣治追悼會に於て見られたかゝる光景は、私に様々のことを考へさせた。まづ第一に私は、吾々の親愛なる同志山宣の死が、如何にわが國の無産階級の共通

の關心事となつてゐるかを決定的に確めることが出来たことを、沁々と痛感した。しかも彼の死がわが國の無産階級の共通の關心事となつてゐるといふことは、同時にまた、それが全世界の無産階級の共通の關心事ともなつてゐるといふことを意味するものであらねばならぬ。無産階級解放運動の潮が最早充分に×××に鼓動を合はせつゝ進行してゐる今日、わが國の無産階級に向つてかくの如き一大衝撃を與へた事件は、直ちに全世界の無産階級の間にも同様の反響を喚び起したことは明かだ。吾々はやがて、その便りを聞く日を待つであらう。

第二は私は、大衆が現在、特に××××反動政治の支配下に於て、如何に心からの敬愛と信頼とを、階級的戦士——更らに適切に言へば階級的英雄——の上に懸けてゐるかを、まさまざと見ることが出来たやうに感じた。

大衆が、死んだ山宣に對して示す追慕は、同時にまた、幾多の同様に勇敢であつた彼の先行者たち——殊に『山宣』の名が呼ばれる時には昨秋臺灣で壯烈なる最後を遂げた『××』の名が大衆によつて最も切實に聯想されるに違ひないのだ——に對する追慕をも意味するものであり、更ら

に又それは、彼等の如き階級的英雄が、現在大衆によつて如何に××に××されてゐるかを如實に反映するものであらねばならぬ。否、それだけではない。山宣はじめ吾々の陣營に於けるすべての犠牲者たちが流した血の——或ひは××で受けた苦しみの——絶大なる無産階級的意義が大衆の前に語られるとき、大衆の一人々々が、如何に心の底から奮ひ起ち、如何にそれらの犠牲者たちが残した巨大なる足跡を見て蹶起し、如何にそれらの犠牲者たちに倣つて階級的英雄たるにふさはしく××しようとするに至るかが、彼等の顔色や態度から明かに讀み取れるではないか！——

かういふ風に考への筋道を辿つてゐた私は、私の演説（大阪での）の順番が来て壇上に立つたとき、その進行中に於て一ト際聲を勵まして、「一人の山宣が倒れて幾千幾萬の山宣が起るのだ」と叫ばざるを得なかつた。そして私は更らに、それに續けて次の言葉を附け足した。「私は今諸君に向つて、その活きた實例を一つ示すことが出来る。今しがたこの壇上から諸君に呼びかけた同志河上——彼が従來或ひは講壇の上から、或ひは著書論文を通じて、解放運動に測るべ

からざる貢献をして来たことは、改めて言ふまでもないことだが、今や彼は山宣の死に直面して断然最後の決心を固め、書齋から街頭に躍り出て、大衆と腕を組んで戦ふに至つたのである。――聴衆は一齊に嵐の如き拍手を送つた。

まことに、犠牲者の血は解放運動の土壤を肥やす。吾々はかつて、カール・リープクネヒトやロ―ザ・ルクゼンブルグの悲壯なる死が、如何にドイツの無産階級運動の波を高めたかを見る。今や吾々は、我等の山宣およびその多くの勇敢なる先行者たちを見舞つた同様の悲劇が如何にわが國の戰鬪的勞働者農民大衆の血を湧き立たしめてゐるかを吾々の眼前に見てゐる。聞け！『XにXたる白色テラーと戦つて、山宣Xの如く生き、山宣Xの如く死ね！』といふ悲痛なる絶叫は、わが國の大衆階級の陣營から陣營へと反響されつゝあるではないか！ かくしてこれらの犠牲者たちの貴き血汐は、その一滴も決して無念には流されなかつたのだ。それは今や、全國に亘つて無数の勞働者農民大衆の戰鬪精神を、益々鋼鐵の如く堅く鍛ひあげつゝあるのだ。

## 二

大阪神戸に於ける山宣追悼演説會に關聯して吾々が以上に述べた諸點は、既にそれに先き立つて、東京に於ける三月八日の山宣告別式および三月十五日の山宣X勞農葬を通じて、吾々が充分に觀察し認識したところと、完全に符合したものであつた。だが、さうしたことの外に吾々が特に大阪神戸に於ける山宣追悼演説會を通じて明瞭に看取した頗る重要點が別にある。それは第一には、昨年末に於ける舊新黨準備會の解散と共に全然地下に押し込められてしまつたやうに見えた左翼戦線が、一般世人には意外と見える程度に堅實に存続してゐて、しかも矢張り一般世人には意外と見える程度に急速に堂々と前面に躍進したことである。第二には、一切の右翼運動の根柢に横はつてゐる社會民主主義の本質が、吾々にも意外に思はれた程度に大衆によつて峻厳に批判され、正當に評價されてゐたことである。

これらの二つの要點の間に緊密なる一脈の相互的關聯が存してゐることは、別に改めて指摘す



るまでもないことではあり、且つまた本論文の進行中にも自然と明らかになつて行くことでもあらうから、茲では特にそれに觸れないことにする。だが、それとは別に、茲では次の問題が提出されなければならぬ。それはかうだ。——何故に、これらの二つの要點が、特に大阪神戸に於ける山宣追悼演説會を通じて、しかく明瞭に看取されたのであらうか？

答。——それは、大阪神戸に於ける山宣追悼演説會が、當該各地方の無産團體協議會主催の名の下に開かれ、殊に少くとも大阪に於けるそれは名實共に左翼および右翼の勞農諸團體によつて構成（臨時的にはあるが）された全大阪無産團體協議會の主催の下に開かれたのであり、従つて事實上左右兩翼の共同参加の下に行はれたものだからである。

この説明は一見恰かも逆説的のやうであるが、しかしそれは事實をあるがまゝに語つたものに外ならないのだ。で、私は以下しばらく、大阪での山宣追悼演説會を中心にして、この問題に對して今少し立入つて解説を試みようと思ふ。

三

私はまづ、舊新黨準備會の解散の當時から最近に於ける大阪での山宣追悼演説會に至るまでの期間に於ける左翼戦線の動きを中心としての一般状態の概観から説き起さう。

おもふに、舊新黨準備會への解散の強行は、全左翼戦線の公然の活動を徹底的に禁遏しようとする支配階級のXXの表明であつた。もとより支配階級は、戰鬪的左翼の全陣營を一舉に根こそぎ絶滅したいが山々であるには違ひないが、しかしさうしたことがXXの情勢の下に於て絶対にXXになつて來てゐることは、彼等といへども十二分に知り抜いてゐることであり、従つて彼等は不承不精にもそれには最早見切りをつけてゐるのである。そこで彼等は、彼等の立場からの次善の方策として、まづ第一着に舊新黨準備會の解散および勞働者農民黨の結黨禁止を手始めに全左翼戦線を嚴重に地下に追ひ込んで手も足も出ないやうにし、公然の場面へは何時かな一步も

踏み出させまいとするやうな蟲のいゝことを目論んだのである。

そして、支配階級のこの目的が、一時は或る程度の成功を以て達成されたかの観があつたことも事實である。吾々はもとより、衷心の確信に基き、舊新黨準備會の解散に際して、左翼戦線に於ける闘争實體の確立の事實を揚言し、更らにそれに附け加へて、労働者農民黨創立大會に於て採決された十五項の行動綱領に即する政治的自由獲得への新闘争がその闘争實體によつて一層強力に展開されて行くであらうことを、——従つてまた今後の或る時點に於て全運動の波が一層まじき勢を以て高まるであらうことを、——豫言的に宣言しておいたのであつたと同時に吾々は、全國の同志たちに向つては、『工場へ！農村へ！』の奨励的スローガンを叫ぶことをも忘れなかつた。だが、當時にあつては、吾々のさうした一切の發言は、絶望を粉飾する一種の虚勢としか、各方面に於て受け取られなかつた。それは單にブルジョア側の側からさう見做されただけではなくて、左・中・右の一聯の社會民主主義者たちの側からも矢張り同様に觀測されたのであつた。それらの社會民主主義者たちは、彼等の合法主義の立場から、相も變らず左翼の小

兒病を兎や角と言ひ立て、そのために左翼は現段階の認識を誤まつて遂に自己のために墓穴を掘るに至つたのだ、等々のことを公言することを憚らなかつた。

一體何故に、それらの社會民主主義者たちは、舊新黨準備會の解散後に、戰闘的左翼の上に冷罵の鞭を加へることに於て、しかく勇敢(?)であつたか？それは無論、當時にあつては、戰闘的左翼の精銳に對する總浚らへ的なXX、XX、XX、XX等々が不斷に續行され、そのために左翼の全陣營が一時は荒涼落寞たる冬枯の景色に見舞はれてゐたからであつた。かかる状態に直面しても、彼等は支配階級に向つては、一言も抗議がましいことをしなかつた。さうした抗議は、彼等の社會民主主義の立場からでも當然のこととしてなし得られることであるにも拘らず、彼等は支配階級の鼻息の荒さに辟易して、夢にもそれには手を觸れまいとした。彼等の代議士團は、昨年の舊勞農黨解散の場合に於てと同様に、今度もこの問題に關しては、議會に於て石の如き沈黙を守つた。彼等は支配階級から放送される『XXXXの幽霊』の百物語に顫るへあがつて社會民主主義者としても當然なすべきことをすらすら、遂になし得なかつたのだ。その代りに彼等は

戰鬪的左翼の陣營に向つては、彼等が享受してゐる言論の自由に任かせて安價なる罵詈雑言を無制限に發射した。

だが、左翼戦線は、さうした合法主義者たちの豫想を見事に裏切つて、最早如何なる状態の下に於ても決して崩壊するものではないことを自ら證明した。舊新黨準備會解散の直後に左翼戦線の上を襲うた冬枯れの惨ましき景色も、さう永くは續かなかつた。やがてその轉換期が暗々裡に到來したことを告げ知らせる諸徴候が、そこかしこから次第に見え始めた。全國に散布して依然舊陣地を固定してゐる舊新黨準備會の勞農大衆は、昨年末の大打撃から案外に早く恢復して、政治的自由獲得勞農同盟の新しき旗の下に一層固く結束して、着々來るべき闘争への準備を整へ始めた。地方によつては、解散後一ヶ月が経つたか経たなかつたかのうちに、既に早くも現實の日常闘争に突入したところが少なからずあつた。そしてさうした報告が到達する毎に、吾々の自信は益々強められて行つた。

## 四

そのうちに、大彈壓の中心地であつた東京にも、市會議員選舉期が廻つて來て、戰鬪的左翼に對して一の合法的活動の舞臺を提供した。かつての新黨準備會の——そして現在の政治的自由獲得勞農同盟の——陣營に於ては、人は選舉闘争同盟を臨時的に組織して、そこから八名の候補者を立て、そして大體の闘争方針としては工場に於ける×傳×動を主位に、街頭におけるそれを從位に置くことに決定し、この方針の下に懸命の努力を以て戦ひ抜いた。かくて、そこでも左翼戦線は、この選舉の擧に乗つて堂々と表面に浮びあがり、その全幅の輪廓を、暫くぶりて再び大衆の歡呼聲裡に現はしたのであつた。

この市議戰に於ては、社會民衆黨が五名の、そして日本大衆黨が一名の當選者を出したのに對して、選舉闘争同盟からは唯一名の當選者も出なかつた。だが、かゝる結果は、戰鬪的左翼が現在その下に置かれてゐるあらゆる不利な状態、殊に選舉に際してのあらゆる不利な状態——選舉

法規および選挙上の慣行に於ける各種の障碍、左翼の候補者および運動員に向けられた例によつて例の如き弾壓、左翼支持の大衆への威嚇、等々その他無数——を考慮のうちに置くときには、最初から豫期し得られないことではなかつた。それにも拘らず、八名の候補者たちのうち、現在×××被告の一人として收容中の唐×清×君が、殆んど無準備の状態、しかも非常に遅駈けた深川區から立候補し、ただ僅かに二回の演説會（その第一回は開會後數分間で開會の辭の進行中に中止解散、その第二回は開會後二三十分間で本文の筆者の演説中に中止解散）を挙げただけで蓋を開けてみると二百五十の票數を獲得してゐたことの如きは、おそらく何人にも意外な好成績だつたといへよう。

だが、本來當選第一主義の上に立つてゐなかつた選挙闘争同盟の立場から見れば、今回の市議戰に於けるその選挙闘争は、際立つて優秀な成功を収めたものといへるのであつた。何よりも殊に、選挙闘争同盟が今回の市議戰を通じて行つた工場および街頭に於ける×傳×動の眞剣な努力は、當落の問題を離れて、極めて豊富な收穫を以て酬ひられた。——尤も工場に於ける×傳×動

は、まだ工場の内部に充分に根を張るに至つてゐなかつた舊勞農黨時代以來の一大缺陷が今日に至るまで尙ほ全然揚棄されたといへる状態になつてゐないところから、今日も決して充分満足といへる程度、範圍には遂行され得なかつたが、しかしそれが行はれた限りに於ては、非常な良好な効果を挙げた。——更に選挙闘争同盟の指導下に持たれた各演説會は、殆んど例外なく拔群の成績を挙げ、その動員された聴衆の數に於て、その燃ゆるが如き會場内の氣勢に於て、ブル諸政黨の演説會は言ふに及ばず、社民黨や大衆黨の演説會の如きも、斷然その足許に及びもつかなかつた。

かうしたあらゆる場面での言論を通じて、さきに勞働者農民黨の創立大會に於て採決された歴史的な十五項の行動綱領に即する様々の闘争スローガンが投げ與へられ、それによつて、現在の金融寡頭政治の反動的支配への抗争を代表する政治的自由獲得闘争の意義が餘すところなく闡明された。もとより、かうしたことのすべては、小市民層の多數に對しては、或ひは演説會場での興奮以外には別に大して永續的な効果を與へ得なかつたかも知れないが、その代りに、それは

來聽の勞働者大衆の腦裡には、社會民主主義者たちの合法主義を一蹴して起つた戰闘的左翼のみが眞に××××の政權に抗して強力に戦ひ得る唯一の勢力でもあり、また現實に戦つてゐる唯一の勢力でもあることを徹底的に印象し、そしてかくすることによつて、彼等の熱烈なる關心、および支持をして翕然として戰闘的左翼の陣營に向はしめた。しかも、かゝる影響の下に來つたものは、他黨の大衆の中にも相當の多數に上るものがあつたであらうことが有りに推測される。今日の東京の市議戦を通じて左翼戦線が一舉に堂々とその實體を著るしく前面に押し出すことに成功したのは、さうした一切の大衆の關心および支持の急激なる昂進に負うたことも、決して少くはなかつたであらう。

本文執筆の當時には、市町村會議選舉が、殆んど全國的に開始されようとしてゐる。地方によつては、既に開始されてゐるところもある。全國各地方の勞農同盟の陣營に據る戰闘的勞農大衆は、東京の市議戦に臨んだ選舉闘争同盟と根本的に同じき組織形態と活動方針とを提げて打つて出ようとしてゐる。既に打つて出てゐるところもある。一二の地方からは、捷報が既に吾々の手

元に送られてさへゐる。だが、大體上に於ては、當落の如何に拘はらず、東京に於けるそれと略々同様の効果が、各地方の勞農同盟の陣營に於ても收められるであらう。即ち、この全國的に行はれる市町村議員選舉を通じて、左翼戦線は一舉に眼ざましき新躍進を遂げることになるであらうし、更らにそれを機として、嘗つてありし日の勞農黨時代以來の激洩たる日常闘争の分野が再開されるばかりでなく、層一層擴大されて行くことにもなるであらう。

かうした諸般の事實に附け加へて、吾々はまた、三月初旬に於て大阪で開催された全國農民組合大會の狀況をも一顧しなければならぬ。この大會に於て全農組合の意識の最も尖鋭化してゐた左翼戰闘的分子が斷然指導權を獲得し行使したことは、よし或る意味に於て別個の方面に起つた事象だと言へるにもせよ、それも根本に於ては矢張り、左翼戦線の堂々たる再進出といふ大きな趨勢との聯關に於て凝視されなければならないことである。

それに直ぐ引續いて、同志山本宣治の暗殺事件が起つた。それは單に全左翼戦線に向つてのみならず、全勞農大衆に向つて、絶大なるシヨツタを與へた。驚愕は忽ち憤激に變はり、追慕感情

は自然的に闘争精神に高潮して行つた。「白色テラー」に對する絶對絶命の××によつて山宣を活かせ！』かうした叫びが、全左翼戦線を激刺と生動させる新たな根本的契機となつた。かくてその反響が、全勞農大衆の間に普遍的に喚び起された。東京に於ける告別式および勞農葬、京都に於ける同じく勞農葬、次いで大阪神戸に於ける追悼演説會。かうした一聯の記念的場面に於て、ありし日の山本宣治を同志とし战友として互に腕を組んで闘争してゐた戰闘的左翼大衆は、全勞農大衆の各陣營の大衆からの熱誠をこめた支持・聲援・激勵を受けつゝ、無限の悲痛裡に燃ゆるが如き階級的××を××せしめたのだ。かくして物凄くも表明された闘争精神は、今後の左翼運動を一層強力に促進する一大拍車となるであらうし、又さうならしめねばならぬ。それは、山宣はじめ幾多の犠牲者たちの死を無意義に終らしめないためにも、絶對に必要である。だが私は茲では差し當つて特に、過去數個月間に亘つて左翼戦線の上に掩ひ冠ぶさつてゐた雲霧がこの機會に一舉に拂ひ退けられ、半平として屹立してゐる闘争實體がその下から、如何にその堂々たる輪廓を再び大衆の歡呼聲裡に露はしたかの一點を強調しようと思つたのである。——大阪での山宣

追悼演説會に臨んで、私が特に強き印象を受けたのはその一事であつた。

## 五

上に述べたことと關聯して、今一つ、大阪での山宣追悼演説會に參列したすべての人々の注意を異常に強く牽いたことは、そこで社會民主主義の本質が大衆によつて驚くべき聰明さを以て批判され、驚くべき率直さを以て評價されたことであつた。そこでは社會民主主義排撃の言論に對する潮の如き共鳴の聲と、社會民主主義的の言論に對する鼎を沸かす如き批難の聲とが、あまりにも顯著な對照を示した。その夜の演壇に立つた社會民主主義グループの人々の名を茲で一々擧げる必要はないが、彼等は全體として見て、満場の聴衆の彼等の演説に對する態度から、さういふ結論が無條件的に導き出されたのだ。少くとも私自身が觀察し得た限り、社會民主主義政黨の或ひは改良主義組合の、幹部諸君の登壇は、如何に最負眼に見ても、大衆によつて極度の冷淡さを以て迎へられ、そして彼等の演説は、或ひは無氣味の沈黙を以て聞き流され、或ひは反感の罵

聲を以て酬ひられ、屢々喧々囂々の彌次聲裡に完全に葬り去られた。かくて、嚴肅悲壯を極めたこの記念的場面に於て、殊に大衆の闘争精神がまさに最高潮に昇りつめてゐたこの階級的集會に於て、社會民主主義的指導者たちの面目失墜の狀況は、轉た慘憺たるものがあつた。だが私は、今その詳細なる記述を避けよう。

前にも一言した通りに、この追悼演説會は、全大阪無産團體協議會の主催の下に、名實共に左右兩翼所屬の諸團體——おそらく中間派乃至中立の諸團體も加へられて——の共同参加の基礎の上に開かれたものであつた。従つてそこには、社會民主主義政黨および改良主義組合の幹部諸君の指導下の大衆も非常な多勢に於て聴衆席を占めてゐた譯であつた。それにも拘らず、そこに出演した限りのそれらの幹部諸君は、ああした惨じめな姿をあの晴れの壇上に曝らさなければならなかつたのだ。それは何故であつたか？ それは、それらの社會民主主義的幹部諸君が、少くともあの場面では、彼等自身が率ゐてゐる——縦し形式上にもせよ——大衆の支持聲援からさへも引き離されてゐたためではなかつた？

この意義深き事實は、實際さまざまの重要な示唆を吾々に與へた。殊に吾々はその中から、社會民主主義に鋭く對立する戰闘的左翼の勢力と、社會民主主義的政黨・組合幹部の指導下にある右翼および中間派の諸勢力との間の交渉もしくは離合集散關係の將來の可能的な移動の方向に關して、非常に示唆に富む實物教訓を學び取つたことを感じた。別言すれば、吾々は右の事實を通じて、過去二個年以上に亘つて極めてジグザクな發展の徑路を辿つて來た所謂戰闘的階級戰線統一問題に對する解決の鍵を現實的に見出したやうに感じた。とにかく私はさうした前提を考慮の基底に置いて以下の論述を進めよう。

私は今しがた、大阪での山宣追悼演説會が左から右までの諸團體を包含した無産團體協議會の主催の下に開かれたにも拘らず、そこに出演した限りの社會民主主義的幹部諸君が大味嚙をつけた趣旨を言つた。それは一面から見れば、まさにその通りであつた。だが、他の一面から見ればその追悼演説會がさうした無産團體協議會の主催の下に開かれたのだからこそ、彼等がさうした窮地に陥らねばならなかつたのだ、とのやうに言ふこともまた、吾々から見れば同様に正しいの





さうした事件のうち、近頃に見られた最大なものであつた。従つてあの追悼演説會に於て、戰闘的左翼の立場と社會民主主義の立場とが、大衆の面前に於て、ああした鋭き對立を見せたのも、決して偶然でなかつたのだ。そして吾々は、そこで大衆が如何なる審判を下したかをも見た。

## 六

更らに溯つて考へると、あの追悼演説會がああした左右兩翼諸團體の共同参加の下に持たれたといふことが既に、全勞農大衆一般が、少くとも當面の山宣暗殺事件の關する限りに於て、戰闘的左翼の立場の××さを極めて明確に把握した事實を反映してゐるものであらねばならぬ。從來左翼の陣營から右翼或ひは中間派の陣營に向つて始終なされて來た例の共同闘争の提議に對しては、それらの陣營の指導者たちは常に斷乎たる拒絶的態度を取つて來たものだ。ところが今回の左翼および右翼の共同追悼演説會の計畫は、少くとも表面上は、何等さうした支障にも出會はず、極めて自然なことのやうに順調に進められ、そしてああした大成功を以て遂行されたのだ。

それといふのも畢竟は、右翼や中間派の陣營の指導者たちが、今度といふ今度は何時になく素直に讓歩的もしくは調和的態度を取つたからであるに違ひない。だが、それにすると、彼等のさうした讓歩的もしくは調和的態度は、一體どこから出て來たのであるか？ それは結局、彼等自身が率ゐてゐる大衆からの不可抗的な壓力によつて促進されたものでなくて何であるか！

だが、右翼および中間派諸團體の大衆が、さういふ風に、下からの壓力を彼等の指導部に置かれてある幹部に反應せしめたのは、それはまた一體如何なる原因から來たものであるか？ この問ひに對してまづ第一着に與へられる答へは、『それは、一個の左翼闘士山本宣治の死が、深刻にも全勞働者農民大衆の共通の關心事となつたといふ眼前の活事實に關聯してゐたのだ』といふことであらねばならぬ。

ところで、一個の左翼闘士山本宣治の死がそれほど深刻に、全勞働者農民大衆の共通の關心事となつたといふことは、突き詰めていへば、それらの勞働者農民大衆が、彼の死を通じて戰闘的左翼の立場の××さに印象づけられた、といふことを意味するものでなくて何であるか？ 彼

れ山本宣治は、生前どこまでも忠實に、その戰闘的左翼の立場を固守し遂に最後の瞬間に、そのために白色テラーの兇刃に斃れたのだ。で、その計報が一朝全國に傳へられるや否やそれらの労働者農民大衆——平常は社會民主主義的指導幹部の欺瞞の魔酔にかゝつてゐたものまでを含めて——は一齊に、遽然として彼の死の無産階級的意義に眼さめ、そこから更らに彼をその無産階級的意義ある死に導いた戰闘的左翼の立場こそ、無産階級的に眞に×××立場——換言すれば眞の意味に於ける無産階級的立場——であることに眼さめたのであるのだ。

無論、それらの労働者農民大衆の少くとも或る部分にとつては、彼等が明確な意識的推理によつてさういふ結論に到達したといふよりは、寧ろ、言はば彼等の『無産階級の本能』によつて臆気ながらもさう感ぜしめられたといふ方が、より妥當であるかも知れない。が、いづれにしても結果は一つである。

戰闘的左翼の立場が無産階級的に眞に正しい立場——眞の意味に於ける無産階級的立場——であるといふことが一旦理解もしくは感得されるとき、それに鋭く對立する社會民主主義の立場が

眞の意味に於ける無産階級的立場でないといふこともまた、同時に同程度に理解もしくは感得されるに至ることは、必然の理路である。(その効果が瞬間的であるか、永續的であるかはよし別問題とするにしても。)

正確にさうした結果が、一個の左翼闘士山本宣治の死を通じて見られた。彼の暗殺の報は、青天の霹靂の如く、全労働者農民大衆の耳朶を打つた。しかもその事件は、あまりにも公然たる舞臺の上で起つた。かくして彼の死の無産階級的意義は、右翼および中間派の陣營に於ける大衆の眼からも掩はれるに違がなかつた。

## 七

『社會民主主義の主要なる役割は、今日では、帝國主義に對する闘争において必要なるプロレタリアートの統一を破壊する點にある。資本に對するプロレタリアートの闘争の統一戦線を分裂粉砕せしめることにより、社會民主主義は、労働階級における帝國主義の主要なる支持物となる』

あらゆる種類の國際的社會民主主義——第二インターナショナルおよびその労働組合支部たるアムステルダム國際労働組合同盟——は、かくして、ブルジョア社會の豫備軍となり、労働者階級の内部におけるその最も確實なる支持物となつてゐる。』(第六回世界大會で決定されたコミンタイン綱領から)

社會民主主義の本質は、國際的無産階級の公論壇上から、かく批判されてゐる。そして、その批判の言葉が、そのまま日本の社會民主主義の本質にも適用できることは、特に説明を必要としないことであらう。あらゆる場面でブルジョアジーと協し取引することを恥とせず、公然と×××排撃を高唱し、支那國民政府支持を宣言し、『議會の神聖』の維持のためにブルジョア政黨と所謂普選擁護同盟に於て提携同行することをすら疚ましとしない、等々、までに成り下がつてゐる右翼社會民主主義者のグループはいふに及ばず、口に××的言辭を唱へて戰闘的労働者農民大衆にまで誘惑を持ち掛けながら、その實際活動に於ては、かの舊新黨準備會打ち壊し運動の陰謀の上に見られたやうな戰闘的階級戰線統一の事實上の攪亂を企てることをすら憚らなかつた

左翼社會民主主義者のグループに至るまで、『労働者階級の内部に於けるブルジョアジーの諸利益の侍女』としての卑屈な役割を意識的に無意識的に演じてゐるものであることなどは共に一つなのである。否、日本に於ては、左翼社會民主主義者のグループこそが、寧ろ右翼社會民主主義幹部以上に、その内面の醜狀を包み切れないやうな慘憺たる窮狀にあるのだ。たとへば、日本大衆黨の成立過程およびその後に於ける前無産大衆黨系の指導者たちの陋態を見よ。

更らに第五十六議會に於ける社會民主主義議員たちが、ブルジョア諸政黨に對して取つた阿諛迎合とまでに見えた協調的態度は、それをブルジョア新聞を読んで知つただけでも、まさに嘔吐を催すに足りる。例の鈴木文治氏の登壇中は春風駘蕩和氣霽々の情趣が満場に漂つて、政友會の議員連さへ感に堪へない面持で傾聴してゐた、とのやうな記事さへ何新聞かで見當つた。かの舊新黨準備會の解散に怯え、吾々の陣營から匆々逃げ出したことによつて、最も大切な瞬間に戰闘的労働者農民を裏切つた臆病者の泰斗水谷長三郎君の治安維持法改悪案に對する反對(?)の發言の如きは、無産階級の立場から見て沙汰の限りと評するより外に途のないものであつた。かうし

たことを一々拾ひ立てしてゐては切りがないが、彼等社會民主主義議員團中で最も大膽さうに見えた言動をした淺原健三君までが、田中外交を評して、帝國主義外交侵略主義外交と疑はれる虞れがあるといつたやうなごまかしを述べ立てて、田中外交の實質がさうしたものでないかのやうな、知れ切つた嘘を捏ツち上げたことだけを挙げれば、爾餘のことは推して知るべきのみである、我等の同志山宣の堂々たる階級的戰士としての態度は、それに對して、如何に鮮やかな對照を示してゐたか！ 彼はまづ、『第五十六議會に際して』の一文に（二月九日の『勞働農民新聞』に發表）於て、自己の對議會態度を宣言した。その中に於て彼は、議會一般の本質を『勞農大衆の××と××と××を合理化し合法化する支配階級の機關』として規定し、特に第五十六議會に關してはそれを『荒れ狂ふ白色テロルの合法化と、將に××を切らんとする××準備のための議會』として性質づけ、またその議會を運轉する技師であるところの政府員および代議士群に關しては、『田中大將から水谷君に至るまでの代議士諸君は、×××の彈壓に賛成であり、帝國の（資本家）の利益のために一致しようといふのだ』と喝破し、次に『勞働者農民無産市民諸君』の呼びかけ

の下に、『私は如何なる場合にも勞働者農民の立場を離れることなく、敵とは斷じて妥協すまい』との固き決心を語り、『また私に諸君が議會内の行動について要求する所があれば喜んでそれに服する』と誓ひ、更らに治安維持法事後承諾案に關して、『本議會に於て治安維持法の改正案が上程される。これこそは勞農大衆の運動を根こそぎ締めつけようとする白色テラーの合法化だ。社會民主主義の諸君は、この法案に一應反對してゐる。だが、この法案の精神には全く賛成なのだ。ただ××黨を社會民主主義者の手で孤立させ叩き壊せと言ふのである』と述べ、最後に『今こそ工場農村に議會解散の大衆的×××××を組織し、諸君の利益を一厘なりとも伸長しないブルジョアの議會を解散し、ブルジョアの政府の××と勞働者農民の×××××のための大衆的闘争に全闘争を集中して戦つてこそ、治安維持法を××し、×××××の陰謀を××して、勞働者農民の利益を擁護することが出来るのだ』と高らかに絶叫した。社會民主主義議員たちが、これに一寸でも眼を觸れたら、いやしくも彼等が不具に近い鈍漢でない限りは、まさに氣死する騒ぎとなるであらう。

さうした堂々たる戦闘的左翼の態度を提げて第五十六議會に臨んだ同志山宣は、だが、一二の小さな場合を除いての外は、とうとう本會議に於て發言する機會を持つことができなかった彼は屢々私との二人の間の會合に於て、如何に社會民主主義議員たちとブル政黨の議員たちとの陰險なる共謀によつて、本會議に於ける發言の途が彼に全く阻止されたかを語つて、憤慨の感情を漏らした。その度毎に私は、より多くの氣魄を彼に期待しつつ様々の要求を持ち出した。それにしても彼は、豫算分科會に於ては、あらゆる機會を掴んで、善戦の限りをつくした。殊に二月八日の豫算分科會に於ける彼の質問は、最もよく彼の沈勇を裏書したものであつた。それは、速記録によれば、階級的闘士たちへの檢束、拘留、虐待、共產黨被告への酷烈なる××等々の諸問題を主題としたものであつた。その日の彼の質問は、外形は極めて温和な措辭を以て組み立てられたものであるが、その内容は峻烈骨を刺し、敵の心膽を寒からしめるに充分なものであつた。不幸、

或ひは當然、それはブル新聞によつて、完全に黙殺された。

だが彼は或る時、治安維持法事後承諾案上程の日こそは、一場の反對演説のために、是が非でも本會議の演壇を戦ひ取らうとしてゐる決心を私に告げた。それは二月二十四日の夜のことであつた。私は彼と共に、本所區の或る小學校で、お互ひの同志の一市議候補者のために應援演説を終へ、歸途彼と一つの圓タクに乗つて、上野ステーションまで同行した。その別れ際に臨んで、彼は右の決心を私に語つた後、低聲であつたが調子に一段と力を籠めて、咽喉を締められて聲が出なくなるまでやります』と言ひ放つた。『私が咽喉を締められずに演説を終へたら、それこそ私の慘憺たる失敗です。』かう附け加へて彼は晴れやかに笑つた。私はたゞしツかと後の手を握つて、二二三の短い激勵の言葉を涙ながらに言ふより外に術を知らなかつた。

彼がかくの如く死を賭して戦ひ取らうと努力した發言の機會も、又々彼から奪はれて行つた。即ち治安維持法事後承諾案が上程された三月五日、前日大阪の全國農民組合大會に臨んだ彼は、長驅して東京に急ぎ歸つて登院した甲斐もなく、彼が豫て通告しておいた質問の順番が廻つて來

ないうちに質問打切りの動議が成立せしめられて、彼は遂にこの度も、この最悪の前衛××法に對して、労働者農民の深刻なる××と××とをブルジョア議會に爆發させることが出来なかつた。しかもその夜彼は、かの悲壯な最期を遂げた。彼は第五十六議會に於て、眞の無産階級的立場から行動した唯一の代議士として最後まで勇敢に戦つたがために、遂に背後の大きな魔の手に操られた一兇漢の揮ふ毒刃の下に鮮血を流したのであつた。

我々の同志山宣の立場は、社会民主主義者たちの立場に對しては、實質上かくの如き鋭き對立をなしてゐた。この意味に於て、第五十六議會に於ける彼の地位は完全に孤立化されてゐたものであつた。彼はそれを極めて明白に意識してゐたが、しかしそれがために毫も應ずることがなかつた。彼れの死の直前、大阪で開かれた全國農民組合大會の第二日（三月四日）に於ける彼の祝辭演説中の次の一節は、その點を最も有力に證明する。曰く、『尖锐化する階級闘争の裡にあつて、合法主義の人々は、色々口實を設けて退却する。水谷君もその一人である。私は、「卑怯もの、去らば去れ！我等は×××××！」と言ひたい。また議會では八名の無産黨代議士が送られてゐる

が、この議會では民衆を欺瞞してゐるにすぎぬ……私な政獲同盟（『政治的自由獲得勞農同盟』）選出の唯一の議員である。私は淋しくない。山本宣治は唯一人孤壘を守る。私は一人でも淋しくない。自分の背後には多數の同志が支持してゐてくれるから。』

さうだ！山本宣治は議會内で唯一人淋しく孤壘を守つてゐた。だが、『この議會では無産民衆を欺瞞して』ゐた社会民主主義者たちは、事實上しかく彼を孤獨の地位に立たせておきながらも、外見上は彼を『無産黨議員團』の一員として取扱ひ、自分等も彼と同一陣營内に居るやうに見せかけて、世間體を取繕つてゐた。だが、やがてその欺瞞が破れる日が來た。彼等の面皮は剝がれた。彼等は幾ら山宣の死に對して萬斛の涙を流してみせても、最早追ツ附かなかつた。

我々が同志山宣の死からカール・リープクネヒトやローザ・ルクンプブルグの壯烈な最期を聯想しながら、靜かに附近の社会民主主義の陣營を眺めやる時、そのほとりにあの二人のドイツの階級的英雄を殺した張本人、エーベルト・シヤイデマン・ノスケの黒き影が動いてゐるのを見ることが出来る様に感じられる。否、それらの三位一體のドイツ社会民主主義者の影は、或ひはそこに差



するが——去る三月中東京で行はれた市議戦に於て、社民黨は五名の、大衆黨は一名の當選者を出したのに反し、政獲同盟は唯一名の當選者をも出さなかつた。但し他の地方からは、既に本文執筆中にも、政獲同盟の捷報や好望の通知が二三、私の手許に達してゐる。

更らにまた、社民黨の勢力下にあつて、チャキ／＼の改良主義幹部に指導されてゐる多くの労働組合は、最近數的に確かに増大してゐる、日本労働總同盟、海員組合などは、その最も典型的な多くの實例を提供する。この點に關聯して、さき程左翼の一論客は、次の如く述べてゐる。

『……顯著な一例は、總同盟の製鋼労働組合である。即ち、所謂「産業民主主義」の機關としての團體交渉權、またそれに似寄りの制度によつて、一工場、一會社、または一産業全體に亘つて、労働者が團結の自由を資本家から貰ひ、自由に得るといふよりも、「本工場は日本労働總同盟製鋼組合員を従業員とする」といふが如く、資本家が強制的に労働者を組合に入れるのだ。組合の幹部が、會社の月給で人事係となることである。これは即ち労働組合が、本來の性質たる反資本家的性質を捨て、資本家的企業の一機關となることを意味する。それにしても、かゝることは、

資本家にとつて相當に負擔のかかることなるが故に、比較的資本力が強大にして、企業經營組織が比較的完備し、資本家の剩餘利潤が比較的豊富な工場産業に於て可能なことであり、現に、事實その通りだ。』等々々。

だとすると、社民民主主義政黨幹部の——従つて改良主義組合幹部の——指導下の諸團體の勢力増進は、一體如何なる社會的根據から來てゐるものであるか？ この問ひに完全に答へるためには、別に獨立の一研究論文が必要であらう。だが、私は今それを企てないで、唯單にそれに関する一二の要點だけを極めて簡單に説明するだけに止めよう。

我々が社民民主主義政黨の政治的イデオロギーを検討するとき、我々はまづ第一に、そこには様々の社會主義的言辭を以て粉飾されたる饒舌の基底に於て、實は小ブルチ・アジア的イデオロギーが中心的地位を占めてゐることを見出す。それは帝國主義以前の時代から、現在の帝國主義時代にまで持ち越されて來たものである。マルクスが第十九世紀半ばのフランスの社民民主黨について述べてゐる諸點（『ブリュメール十八日』第三章）を今日の社民民主主義者流の政論に適用し



てみると、我々は特にこの感を深くする。今日の社会民主主義政黨の實力の基礎——それは今日の基礎であるが、明日の基礎であるか否かの保證のついてゐないものである。——が、この點から來てゐることは、決して輕微な程度には止まらないのだ。殊に現在の日本に於ては、小市民層や未組織勞農大衆が、一方に於ては段々と政治的關心を高めつゝある傾向があり、他方に於てはブル新聞を通じてさへブル政黨に嫌氣がさし、頻りに何かの『新味』のある政治——殊に幾分かの社會主義的な匂ひがあつて、しかも『あまり過激に涉らないもの』を求めつゝある。議會主義の遵奉者であり、當選第一主義の渴仰者である社民黨や大衆黨などは恰度そこへ附け込んで、殊に選舉季節になると猛烈に『言論戰』を展開する。社民黨は『勤勞階級本位』のラッパを吹き立てる。大衆黨は、完全なる革命的字句を拾ひあつめて、根本に於て矢張り同一性質の宣傳演説の雨を降らす。それが屢々奇功を奏することもある。だが、今日彼等に追隨する大衆か、明日彼等を置き去りにして一足お先きに失禮しないとは、誰にも保證が出来ないのである。

だが、帝國主義の時代——特に帝國主義の現段階——に於ては、社會民主主義は、その實力の基礎を、それ自身の新機能から、遙かにより多く得つゝある。その所謂それ自身の新機能とは何を指してゐるものであるか？ それは、『勞働者階級の内部に於けるブルジョアジーの諸利益の侍女』として奉仕する役割であり、更らにより多く、『帝國主義に對する鬭争に於いて必要なるプロレタリアートの統一を破壊する』役割である。日本の社會民主主義諸黨も、既に早くもこれらの新機能を果たすことより、換言すれば『資本に對するプロレタリアートの鬭争の統一戰線を分裂粉砕せしめることにより、『勞働者階級における帝國主義の主要なる支持物となる』に至つた。そして彼等のさうした努力は、ブルジョアジーによつて、手厚く酬ひられてゐる。見よ！ 戰闘的左翼に對して白色テラーが荒れ狂ふたゞ中にも、彼等の陣營は如何に安全に保護されてゐるかを。戰闘的組織の破壊や、精銳闘士の投獄や、犠牲者の流血やは、たゞ左翼戰線の上のみ見られる現象であつて、社會民主主義の陣營には斷じて起る虞れはない。のみならず、更らに一步を進めて、日本のエーベルトや、シャイデマンや、ノスケヤが、他日彼等の陣營から輩出するに至らな

いとは、誰にも請け合へないのだ。

次に、改良主義幹部の指導下にある若干の労働組合が、少くとも大資本による経営の下に於ては、ブルジョアジーの剰餘利潤の餘瀝の幾分を嘗めさせられてゐるやうな特殊地位にあることは、前に略叙しておいた。これはもとより、究極に於て日本の産業の向上發展性に負ふものであり、特に×××に對する強力的收奪、並に産業上の技術および設備の優越による生産の高級段階的地位から來るブルジョアジーの特殊利潤の小さなお裾分けから生ずるものである。だが、——否、だとすれば、——少くとも日本に於ては、この原因から來る改良主義幹部指導下の諸組合が、ブルジョアジーの手から享受し得る有利な特殊地位といったところで、それは大凡底の知れたものであらねばならぬ。といふのは、日本の産業の向上發展性は、根本に於てその資源の貧弱さによつて嚴重に制約されてゐるものだからである。また×××××搾取による富といつても決して無盡藏といつた譯のものでもなし、更らに産業上の技術および設備の優越となると、さういふことが日本に關しては如何なる意味で言へるかさへが、極めて疑はしい問題である、で、さういふ泉原から特殊の労働大衆に與へられる利益は、その分量からいつても、その受益者の範圍からいつて、

も、その永續の可能性からいつても、大した問題にならないものと思はれる。だから、さういふ事業が労働大衆を甘美な魔酔境に導き得る力は、日本の産業の發展性の實現のための必須條件もしくは必然の附屬物である産業合理化、帝國主義戦争の接近、等々から來る労働大衆の生活の脅威が彼等を×××××に驅り立てる力に、遙かに壓倒されるであらう。否かゝる×××は、今日に×××の×××に×××來てゐる。改良主義幹部指導下の組合大衆中の段々と擴大しゆく部分が、左翼運動への接觸の急速なる増大。彼等が餘りにも屢々擧げる幹部反對——社會民主主義的指導もしくは改良主義的指導に對する反對——の聲、少からざる場合に於て、彼等によつて左翼運動に對して示される熱烈なる共鳴同情、等々。その最後の項目こそは、我々が從來経験した限りに於て、同志山宣の死を契機として最高頂に達したものである。

我々がかゝる諸事實のうち、右翼大衆中の段々と擴大し行く部分の意識の急激なる左翼化の

傾向を明かに看取することが出来るのだが、この傾向を促進する眼前の社會情勢こそは、同時にまた、左翼戦線そのものが如何なる大打撃を受けても決して××××いばかりでなく、却つてその度毎に益々××××××行くのを常とするといふ事實の根本原因である。舊勞農黨から舊新黨準備會へ。——舊新黨準備會から現在の政治的自由獲得勞農同盟へ。——かうして我々の陣營は、起つては倒れ、倒れてはまた起つて進みつつ、如何なる鐵火の試練にも決して屈服することなく、今日に及んだのだ。のみならず、我々の陣營は從來、一たび倒れた時には、以前よりも××××××××××として再び起きあがることを嘗つて誤まつたことはない。若し舊新黨準備會が舊勞農黨に比して幾倍もの行動力を以てその廢墟の上に崛起したものとすれば、現在の政獲同盟はたしか舊新黨準備會に比して幾十倍もの行動を以て大衆の面前にその姿を現はした。それは、現情勢の下に於て公然の舞臺に活躍し得る戰闘的左翼の闘争體としては、おそらくその最高水準を示してゐるものである。このことは、何よりも殊に、第一にはこの政獲同盟が現情勢に最もよく適合した階級的行動綱領を眼前に見据えてゐることから來てゐるものであり、第二には該

同盟の組織形態が、その骨組みの堅實性と、その運轉の柔軟撓屈性とを兩つながら兼ね備へてゐるためでなければならぬ。

顧みれば、昨年末、世界の無産階級解放運動の波が一時際高まつて來たと共に、わが國の無産階級の陣營がそれに伴つて俄かに活況を呈して來たとき、全國の戰闘的勞農大衆は、その頃新たに獲得されたる合法主義に對する嚴正なる批判と、無産階級の黨は唯一つしかあり得ないといふ科學的認識とに即して、舊新黨準備會に向つて、それが尙ほ僅かばかりは保留してゐた社會民主主義の殘滓を最終的に一擲することを要求した。舊新黨準備會は直にこれに應じ、十五項の階級的小スローガン——『(一)勞働者農民に言論集會、出版、結社の自由を與へよ』から『(十五)資本家地主の政府を××、勞働者農民の政府を××××、戰闘的勞働者農民の陣營××』までの——から成り立つところの勞農大衆の日常利害の要求と政治的自由獲得の闘争との結び付きを規定したる行動綱領を決定し、それを掲げて、玉碎を期してまつしぐらに勞働者農民黨の結黨大會に臨んだ。その結黨大會は三日目に解散された。全國から參列した數百の代議員たちは、口々に『農

村へ！工場へ！」のスローガンを叫びかはしながら、暫し袖を別つて、各自にその部署に引き揚げた。その間に我々の陣營を見舞つた大弾壓については、前に既にこれを述べた。

沈黙の日が一箇月ばかり続いた。だがそれは、決して舊新黨準備會の陣地が崩壊したためではなくて、それが着々形態轉換期を潜り抜けつつあつたがためだつた。やがてその期間が経過すると、それは現在の政治的自由獲得同盟の新しい姿を以て、猛然として起き上がった。全國のそこかしこに於て、活潑なる日常闘争が再開された。地方自治體の選舉が再び戦はれ始めた。左翼戦線は、かくして再進出の巨歩を堂々と踏み出したのだ。

そこへ同志山宣の暗殺事件が突發した。彼は、戰闘的左翼の立場を飽くまで忠實に固守して最後の瞬間までそのために戦つたがために遂に荒れ狂ふ白色テラーの餌食となつた。この事實によつて、彼が據つてゐた我々の陣營の本質が、滿天下に宣明された。戰闘的勞農大衆は、×××階級的××と×××とに燃えて奪ひ立つた。彼の暗殺を通じて企てられたに違ひないところの左翼戦線への威嚇の計略は、全然反對の効果を産んだ。左翼闘士たちの闘争精神は、それを契機とし

て層一層旺盛となつた。左翼戦線は俄かに幾倍にも×××した。

と同時に、全國の勞働者農民大衆は、彼の計報に接するや否や、忽ち彼の死の無産階級的意義を読み取つた。そして、リーブクネヒトにも對比された我々の同志山宣は、それらの勞農大衆の心のうちに不朽の記念塔を築きあげた。彼の死は、全勞農大衆の共通の關心事とされるに至つた。そして彼の死を通じて、彼の生前一方に於て輝やかしくも代表してゐた戰闘的左翼の立場の階級的××さが、全勞農大衆によつて正當に感得され理解された。かくて彼等は、彼の死の追悼に於て、戰闘的左翼と完全に協力するに至つた。彼の告別式、勞農葬、および追悼演説會は全勞農大衆の支持應援の下に異常の成功を以て舉行され、階級的に萬丈の氣焔を擧ぐる機縁となつた。そして事件のかゝる進行は、大阪での追悼演説會に於て、その最高頂點に達した。殊にそこでは、戰闘的左翼の立場に鋭く對立する社會民主主義の立場が、左翼的闘士として死んだ彼への追悼の趣旨に關聯して、大衆によつて徹底的に批判され、正當に評價された。

かくて左翼戦線の眼さましき再進出は、完全に決定的のものとなつた。

325  
369

戦闘的労働者農民の陣営××。——一九二九年四月——

★  
 レーニン著 國家について  
 高山洋吉譯 經濟國争の諸教訓  
 レンツナー著 右翼的偏向の問題  
 大山都夫著 左翼戦線の再進出  
 甲 送料各二錢 金  
 ・三〇  
 ・二〇  
 ・四〇  
 ・二〇

昭和四年九月十五日印刷  
 昭和四年九月二十日發行

著者 大山都夫

東京神田區同朋町廿二

發行者 永田周作

東京京橋築地二ノ三〇

印刷者 川崎佐一

東京神田同朋町廿二

發行所 永田書店

振替東京七五九〇六番

定價 二十錢